

教育委員長 年頭所感



教育委員長 塚本 亨

新年、明けましておめでとうございます。皆様には、ご健勝で初春をお迎えのことと拝察し、お慶び申し上げます。

昨年は消費税の引き上げ、デフレ脱却に向かつての様々な施策が展開された中で目まぐるしい一年でありました。一方、明るいニュースもありました。ノーベル賞では日本人として、赤崎 勇教授、天野 浩教授、中村修二教授の三先生がノーベル物理学賞を受賞されました。今日何処でも目にいたします青色LEDの研究成果であります。東京理科大学葛飾キャンパスでの「わくわく未来館」、「科学教室」等で意欲的に取り組んでいる子ども達にとりまして大きな励みと、希望となりましょう。また、ノーベル平和賞の受賞者の一人、史上最年少での受賞となったバキスタンの17歳の少女マララ・ユスフザイさんの二人の子ども、一人の教師、二冊の本、二本のペンで世界を変えられる」のコメントと、授賞式での「全ての子ども達を学校に」のスピーチは感動的

なものでありました。また、もう一人の平和賞受賞者のインドの人権活動家のサティアルティ氏の「子どもたちの夢を否定するほど、ひどい暴力はない」のスピーチも全世界にむけた素晴らしいメッセージでありました。まさに、教育の原点であります。

平成26年度は「葛飾教育プラン2014」(葛飾区教育振興基本計画)のスタートの年でありました。本プランでは平成30年度までに「みんなで育ちあう『かつしか』で、自信と誇りあふれる人づくりを進めます」を目標と掲げて策定されたものであり、子どもたちが自ら考え行動し、たくましく生きる力を育むため自ら実践する規範として「かつしかつ子宣言」が策定され、昨秋11月8日の教育の日には東京理科大学でシンポジウムが開催されました。

「生きる力を育み質の高い学校教育の推進」の施策として、児童・生徒の学力向上に向け「葛飾学力伸び伸びプラン」の拡充を行いました。またトップアスリートを招聘し、講演会、実技指導を通じて子どもへの体向上も図られました。

子ども達が義務教育終了までに身につけて欲しい基準となる「葛飾教科スタンダード」、「かつしかつ子学習スタイル」、「葛飾教師の授業スタンダード」等に基づき、各学校ではその推進を図り、各校において鋭意努力がなされ、定着度の検証をして学力向上を図ってきたところであります。また、幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校との連携にも努めておるところであります。

急激な少子・高齢化社会に入った今日、現在の1億2,000万人余の我が国の人口も予測推計値では40年後には現在の約2/3の8,000万人とされております。直近の中教審では最近の動向に踏まえて、少子化を見据え、「人口減少社会の義務教育のあり方」を視野に様々な提言がなされました。

教育委員会制度の改革、グローバル化に対応した英語教育、ICT・ALTの充実に視野に入れての各分野への提言がなされました。いじめ対策防止法案の施行の下、「チーム学校」にまで言及されております。文科省の教育再生実行会議の提言の下、学習指導要領においても今年は様々な施策、提言がまいります。しかしながら、当教育委員会では、前述の理念のもと、今年一年、保護者の皆様、地域の皆様を始め、関係者一丸となり次代を担う子ども達の為に邁進いたします。更なる区民の皆様のご理解、ご指導を年頭にあたり祈念申し上げます。

――子々孫々に繁栄を――

26年11月24日付で、塚本亨氏が教育委員長に就任し、面田博子氏が教育委員長職務代理者に指定されました。

また、面田博子氏の任期満了に伴い、26年12月25日付で、天宮久嘉氏が教育委員長職務代理者に指定されました。

その他の教育委員会の議案・報告事項等については、葛飾区ホームページ <http://www.city.katsushika.lg.jp> をらんください。



教育長 塩澤 雄一



教育委員 竹高 京子



教育委員 杉浦 容子



教育委員 松本 實



教育委員長職務代理者 天宮 久嘉